

学校教育目標	「笑顔いっぱい 未来にはばたく 駒林の子」 ○問題解決に向けて自ら工夫し、主体的に取り組む子を育てます。(知) ○自他の思いや相互のかかわりを大切にする子を育てます。(徳) ○自他の生命を尊重し、健康でたくましい子を育てます。(体) ○学校や地域に愛着をもち、自分にできることを考えながら行動する子を育てます。(公) ○進んでさまざまな人やものとふれあいながら、社会への視野を広げる子を育てます。(開)				
	創立 53 周年 児童生徒数: 516 人	学校長 小田 和宏 主な関係校: 日吉台西中学校、下田小学校	副校長 松井 有子	2 学期制	一般学級: 17 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 コミュニケーション能力 協働的に課題解決する力 互いを認め合う力 自分の学校・まちを愛する心	日吉台西中 ブロック 日吉台西中学校 下田小学校 駒林小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 ○課題を発見し、主体的に問題解決に取り組む子ども ○互いを認め合い、ともに学び合う子ども 【日吉台西中ブロックテーマ】～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実～ ○学習に向かう素地を身に付けるために、子どもが主体になる教室をつくる。 ○ともに学び合う姿を目指して、子どもに委ねる授業づくりと安心できる風土づくりを進める。○小中合同授業研究会では、主体的に問題解決に取り組む子どもの姿をもとに協議を行い、授業改善を図る。○小中連携を深め、小学校でのICTの効果的な実践に基づき、中学校におけるICT活用の充実を図る。
---	--	--

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、互いを認め合いともに学び合う授業づくりを推進します。 ・意欲を高めるための工夫を行い、主体的に問題発見し、解決に向けて学習を進める力を育てます。 ・子どもたちに委ねる授業づくりを進め、自ら学びを選択する力を育てます。 ○子ども一人ひとりが安心して自己表現できる学級づくりを推進します。 ・温かい雰囲気をつくり、話し合い活動を通して課題解決する力を育てます。 ・心理的安全性を高め、新しいこと・乗り越える壁があること・他者と協働する必要があることにチャレンジする力を引き出します。 ○地域とつながり、人との出会いや豊かな体験を通して、夢や希望、目標をもてる自分づくり教育を進めます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①主体的な学びを進めるための教材研究や授業構想を丁寧にを行い、一単位時間の質の向上を図る。②重点研究のテーマ「主体的に取り組む、ともに学び合う子の育成」を各教科で進める。練り上げや振り返りの視点、板書のルールを共有し、高める資質・能力や協働的に学ぶ手立てを明確にする。
徳	人権教育	①「子どもの発言や行動を教師が受け止める姿勢を一貫する」「対話の約束を学級で共有する」「意見の違いを価値づけ安心感を高める」「自己の振り返り、他者の意見にふれる機会をもつ」「子どもの考えを取り入れ委ねる場面をつくる」を進める。②継続して「あいさつ」「たてわり」「音楽」の3本柱の取組を進める。
体	健康教育	①市体力・運動能力調査の結果の分析を全学年で細やかにを行い、体育学習の質の向上につなげる。②健康的な生活習慣や適時的な相談ができるように、児童が自分の心身の健康を見つめる機会を適切にとる。③家庭・地域と連携し、健康や安全について自らの判断を促す働きかけや判断する力を育てる取組を継続して進める。
公	自分づくり教育	①子ども自らが進んで地域とつながることを大切にして、人とふれ合ったり体験的に学んだりする機会を設け、社会への視野を広げる。②ICTを活用しながら、「横浜の時間」で身近な課題や社会課題の解決に向けた活動を進めたり、自分たちの興味関心を生かしたりして、自己実現力を育てる。
いじめへの対応		①子ども自身の経験や思いを引き出し「いじめは自分たちの問題」として捉えられるようにし、子どもたちが考える未然防止の取組を進める。②月2回以上いじめ防止対策委員会を実施し、早期解決や再発防止に努める。③毎日の健康観察、定期的なアンケートによって子どもの状況を適切に把握する。
人材育成・組織運営(働き方)		①メンターチームでの研修を継続して行うとともに、個々の教職員の取組を共有する。②ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図り、学習指導・児童支援の相談や情報共有を進める。③校務分掌での学校運営参画を進める。教務会や企画会を通して、ミドルリーダーによる学校運営力を高める。
特別支援教育		①教育活動や分掌において特別支援教育の視点の手立てや対応を盛り込んだ計画を立てる。②特別な支援を必要とする児童や個別支援学級の教育活動の充実を目指して教職員組織の改善を図る。③ユニバーサルデザインを授業の質の向上と捉え、全ての授業で「見通しの提示」「指示の明確化」「視覚的支援」の実践を進める。
地域学校協働活動 学校運営協議会		①地域学校協働本部を設置し、教育環境の整備や学習補助の充実を図る。②学校運営協議会を通して、学校・地域が目的を共有して協働し、児童生徒の見守りや支援を進める。③地域とつながりを大切にして生活科や総合的な学習の時間等の学びを進め、学びを社会とつながる実感につなげる。
児童指導		①児童が自分事として捉えるように、「学校のスタンダード」の必要性を児童とともに考え、よりよい内容や表現にしていく。②児童との関係性づくりとともに定期的な教育相談を実施し、支援を行える体制をつくる。③児童が自分を理解する力を高める取組とYPアセスメントを活用したチームでの学級理解・児童理解を両輪で進める。
教育環境整備		①整理・整頓された環境は教育活動そのものと捉え、教職員・児童が協力して取り組み、環境整備を「文化」にする。②毎月の安全点検で重点項目を明確にし、適切な保守整備のための教育予算の適切な計画・執行につなげる。③特別支援教育の取組と連動した環境整備を進め、学習ルームや相談室の環境づくりを行う。